

2020 Tokyo Thanks Match 5回戦 (9 月 27 日)

～VS 専修大附属 ゲームレポート～

いよいよ、東京都ベスト 16 をかけて専修大附属との試合です。本日は勝利すればダブルヘッダーとなります。1 試合目で都千歳丘に勝利したため、本日 2 試合目となります。都千歳丘戦の後、すぐに切り替え、専修大附属戦に向けた対策を皆で確認しあいました。相手は、東京都 3 位のチーム。

「中途半端な事は通用しない、今までやってきたことを『迷いなく思い切り』出していこう!」と話していました。

1 Q から、相手の強度の高いディフェンス、精密機器のようなアウトサイドショットで点差をつけられていきます。しかし、「プラン通り、自分たちのやってきたことをやろう」とタイムアウト明けも 3 年生 # 5 から声が飛びます。この日は、3 年生の # 10 がディフェンスで貢献できていました。この専修大附属戦でも特殊な役割を担っていたのですが、それを地道にこなしていきます。1 Q が終了し、8 - 22 とリードは許していますが、選手の目はまだ生きています。2 Q には、その # 10 のディフェンスが効き、相手の得点が止まりました。「今こそチャンス」、全員がオフENSEのギアを上げるのですが、相手は強豪校。オフENSEがうまくいかない時は、ディフェンスから流れを作ろうとします。お互い得点の入らない時間が続き、その均衡を破ったのは、相手でした。こちらのミスから立て続けに、ファーストブレイクを出されてしまい、前半終わって 19 - 40 と得点を詰めることができず終了しました。「ここから、ここから」、3 年生や 2 年生のキャプテンから声が飛びます。3 Q、2 年生のキャプテンが意地を見せ、強気のカットイン・3 p と気を吐きます。

点差は詰めることができませんが、ベンチにいる選手、コート内の選手、何よりもこの大会にかけてきた3年生は、闘志を見せあきらめることなく声を出し懸命にプレーし続けます。最後の最後まで死力を尽くします。そして、試合終了。最終スコアは46 - 88でした。

この大会は、コロナ禍により中止になったインターハイ予選の代替大会という位置づけで、ある意味試合のなくなった3年生のために設けられたものです。しかしながら、「本当はやりたいが、」と考えて迷い、断念せざるを得なかった者もいます。そういった仲間の思いも背負いながら、ここまで約3か月、「毎日」1、2年生とともに練習に励んだ#5、#10のひたむきな姿勢に敬意と感謝を感じずにはいられません。そして、この場には立つことのできなかった3年生にも感謝です。ありがとう。最後に多くの不安の中で、ご協力いただいた保護者の方々、そして大会関係者に感謝です。ありがとうございました。

5回戦 VS 専修大附

1Q 8-22

2Q 11-18

3Q 13-23

4Q 14-25

Total 46-88 Lose

